

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島威夫

事業名：一般国道50号結城バイパス	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 関東地方整備局
起終点：自：茨城県結城市小田林 至：茨城県下館市布川	延長：7.7km	
事業概要：一般国道50号は、群馬県前橋市を起点として、桐生市、足利市、小山市等の主要都市を通過し茨城県水戸市に至る延長約152kmの主要幹線道路である。 結城バイパスは、結城中心市街地の都市交通の円滑化と沿道環境の改善、開発計画等地域振興の支援を目的に進めている4車線のバイパス事業である。		
S54年度事業化	S53年度都市計画決定	S55年度用地着手
全体事業費：約300億円	事業進捗率：90%	供用済延長：7.7km
計画交通量：28,200台/日		
費用対効果分析結果	総費用：(残事業)/事業全体 49/103億円 (事業費：23/77億円 維持管理費：26/26億円)	総便益：(残事業)/事業全体 337/337億円 (走行時間短縮便益：329/329億円 走行費用減少便益：5/5億円 交通事故減少便益：2/2億円)
		基準年：平成15年
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（新幹線停車駅である小山駅へのアクセス向上が見込まれる。） ・都市の再生（区画整理の沿道まちづくりとの連携あり。） 他6項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 結城バイパスは、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、結城市をはじめとする関係3市6町1村の首長で構成される国道50号線整備促進期成同盟会より4車線化整備の要望（平成15年5月21日）を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 バイパス沿道の開発が著しく、現道の混雑緩和および沿道環境は向上しているが、バイパスの交通渋滞が深刻化している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 順次整備を進めてきており、現在までに延長3.0kmの4車線供用、残る区間は暫定供用している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 交通需要が高く沿道開発の著しい結城市内の交通円滑化を図るべく4車線整備を促進しており、平成15年度には主要地方道結城野田線から主要地方道結城下妻線間の約3.0kmを4車線にて供用。今後も交通状況や沿道土地利用状況を勘案しながら順次4車線化を進める。		
施設の構造や工法の変更等 コスト縮減に資する調達方法の採用や新技術の積極的活用など、コスト縮減に努めるとともに工期短縮を図り、併せて整備効果の早期実現を図る。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。	
事業概要図	<p style="text-align: center;">一般国道50号 結城バイパス L=7.7km</p> <p>自：結城市小田林 → 2/4供用 L=1.9 → 4/4供用 L=3.0 → 2/4供用 L=2.8 → 至：下館市布川</p> <p>沿道：(主)小山結城線、(主)結城野田線、(主)結城下妻線、(主)小山環状線、(主)小山川橋上り線</p> <p>近接施設：JR水戸線、(主)結城野田線、(主)結城下妻線</p> <p>市界：小山市、結城市、下館市</p> <p>凡例： 〃 供用中 〃 事業中 〃 再評価箇所 〃 うち供用中</p>	

(※1) 事業全体の費用便益分析は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。
 ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。